

おおたま

2019

No. 114

令和元年 7月発行



おおたま未来デザイン事業（7月3日）

一般社団法人もとみや青年会議所の事業の一環で、大玉中の2年生・3年生がSDGsについて学びました。2回目の学習は、SDGsの視点を踏まえた未来を描く意見を交換しました。

エスディー・ジーズ
SDGs（Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標）は、2015年に国際連合で採択された国際社会が共通して達成すべき目標です。目標には、貧困やエネルギー問題、まちづくり、経済成長など17の項目が定められています。



6月定例会開催 **今年度の国民健康保険税は？** 2

議員発議 **意見書3件を提出** 4

一般質問 **ここが聞きたい！ 5人の議員が登壇** 5～9

ルギー設備の推進にむけて

一般会計補正額 5億9743万円

6月定例会開催

今年度の国民健康保険税は？

1人当たり
平均課税額
10万8282円
(2.1%増)

1世帯当たり
平均課税額
6万9377円
(1.6%増)

令和元年度の国民健康保険税を決める税条例が改正されました。

国民健康保険税は、その年度に予測される医療費から国保加入者が病院等に支払う一部負担金、国の補助金などを差し引いた分が国保税の総額となり、国保加入者に負担していただくものです。昨年度、財政運営主体が市町村から県へ移行されましたが、按分率等は従来通り村で算定しています。

本年度の国民健康保険税は下の表のとおりです。なお、一人当たり・一世帯当たりの平均課税額の増額は、国保加入者数と国保加入者の収入の減少などによるものです。

令和元年度 国民健康保険税按分率

項 目			令和元年度	平成30年度	比 較
応 能	所 得 割	医療給付費	6.95%	6.29%	0.66%増
		後期高齢者支援金	2.71%	2.45%	0.26%増
		介護納付金	2.31%	2.23%	0.08%増
応 益	均 等 割 (加入者1人当たり)	医療給付費	23,700円	23,100円	600円増
		後期高齢者支援金	9,200円	9,000円	200円増
		介護納付金	11,100円	10,500円	600円増
	平等割 (1世帯当たり)	医療給付費	20,700円	20,300円	400円増
		後期高齢者支援金	8,100円	7,900円	200円増
		介護納付金	6,800円	6,500円	300円増

項 目		令和元年度	平成30年度	比 較
賦課限度額 (税の上限額)	医療給付費	61万円	58万円	3万円増
	後期高齢者支援金	19万円	19万円	(据え置き)
	介護納付金	16万円	16万円	(据え置き)

6月定例会は、18日から21日までの4日間の会期で開かれました。
内容は、村長提案案件14件（専決処分1件、条例制定1件、条例改正5件、宣言1件、補正予算3件、工事請負契約1件、物品売買契約1件、報告1件）および議員発議3件、合わせて17件が提出され、審議した結果、原案どおり可決しました。なお、陳情は3件提出され、審査の結果は4ページのとおりでです。

住宅用再生可能工ネ

令和元年度 6月補正予算

会計名	補正額	総額
一般会計	5億9743万円	49億9386万円
国民健康保険特別会計	△186万円	8億9769万円
介護保険特別会計【保険事業勘定】	△53万円	7億4276万円

一般会計

【歳出 主なもの】

○移住支援金給付事業	380万円
○公共施設整備基金積立	5億6380万円
○プレミアム付商品券発行事業	933万円
○住宅用再生可能エネルギー設備設置補助事業	200万円

6月定例会 議決結果

議案番号	議案名	結果
議案第34号	大玉村税条例等の一部を改正する条例の専決処分の承認を求めることについて	原案可決
議案第35号	大玉村公共施設整備基金条例の制定について	原案可決
議案第36号	特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第37号	大玉村税特別措置条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第38号	大玉村国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第39号	平成23年東日本大震災による被災者に対する村民税、固定資産税及び国民健康保険税の減免に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第40号	大玉村介護保険条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第41号	大規模太陽光発電所と大玉村の自然環境保全との調和に関する宣言について	原案可決
議案第42号	令和元年度大玉村一般会計補正予算について	原案可決
議案第43号	令和元年度大玉村国民健康保険特別会計補正予算について	原案可決
議案第44号	令和元年度大玉村介護保険特別会計補正予算について	原案可決
議案第45号	令和元年度応急仮設住宅撤去工事（安達太良Ⅱ期）請負契約について	原案可決
議案第46号	令和元年度消防小型動力ポンプ付積載車購入に係る物品売買契約について	原案可決
議員発議第2号	福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書について	原案可決
議員発議第3号	地方財政の充実・強化を求める意見書について	原案可決
議員発議第4号	中小企業・小規模事業者を支援し、最低賃金の大幅な引き上げを求める意見書について	原案可決

6月定例会に提出された陳情

件 名	提 出 者	付託委員会	審査結果
福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書提出の陳情について	福島県二本松市高田 日本労働組合総連合会福島県連合会 二本松・安達地区連合 議長 高橋 誉	産業厚生	採 択
地方財政の充実・強化を求める意見書提出の陳情について	福島県二本松市高田 日本労働組合総連合会福島県連合会 二本松・安達地区連合 議長 高橋 誉	総務文教	採 択
中小企業・小規模事業者を支援し、最低賃金の大幅な引き上げを求める意見書の提出について	福島県二本松市亀谷 二本松地方労働組合総連合 議長 佐原 成典	産業厚生	採 択



福島県町村議会議長会自治功労表彰

6月3日に開催された福島県町村議会議長会定期総会において、押山義則議員が議員在職11年の自治功労により表彰されました。6月定例会では表彰の伝達が行われました。

押山義則 議員
(議員在職11年)

議員発議

意見書3件を提出

福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書について

提出先
内閣総理大臣、厚生労働大臣、福島労働局長

地方財政の充実・強化を求める意見書について

提出先
内閣総理大臣、内閣官房長官、総務大臣、財務大臣、経済産業大臣、内閣府特命担当大臣（地方創生、規制改革）、内閣府特命担当大臣（経済財政政策）

中小企業・小規模事業者を支援し、最低賃金の大幅な引き上げを求める意見書について

提出先
内閣総理大臣、厚生労働大臣



6月定例会では、6月20日に5人の議員が一般質問を行いました。
質問と答弁を要約した内容は、質問順に5ページから9ページです。

たけだ えつこ 武田 悦子	1. 国民健康保険制度の充実を求める	5ページ
すどう ぐんぞう 須藤 軍蔵	1. 持続・発展する大玉村をめざして	6ページ
おしやま よしのり 押山 義則	1. 「健康長寿の村づくり」への取り組みは 2. 大玉村産米ブランド化に向けて	7ページ
さわら さゆり 佐原佐百合	1. ごみの減量化と環境教育の推進は	8ページ
ささ きいちお 佐々木市夫	1. 「子育て支援センター」整備の課題 2. 若手職員に課したプロジェクトの実現への道筋は	9ページ

※一般質問…議員が村の行財政全般にわたって、村に対し説明を求めまたは所信をたずること。
大玉村議会の一般質問は、一人30分以内で答弁時間は含まない。

一般質問

ここが聞きたい！

5人の議員が登壇

議会だより おおたま 4



国民健康保険制度の充実を求める

質問趣旨

国民皆保険制度の最後の砦^{とりで}である国保制度だが、高すぎて払いきれない保険税となっている。加入者負担を減らす方策を伺う。

武田 大玉村の国保加入の世帯、人数、14歳以下の人数を伺う。

住民福祉部長 3月31日現在の国保加入世帯は1024世帯、加入人数が1739名、そのうち14歳以下の人数は108名である。

武田 国保税の滞納額はどのくらいになっているのか、件数・金額を伺う。

住民福祉部長 平成30年度末現在の国保税の滞納見込みは、件数が2899件、金額が7659万6698円である。内訳は、現年分の件数が511件、滞納額は1243万795円、過年度分の件数が2388件、滞納額は6416万5903円である。

武田 これまで国保財源を補うために一般会計からの繰入れを行ってきたが、今後も行えるのか、考えを伺う。

住民福祉部長 昨年度から県の運営方針により、税負担の軽減や決算補てんを

目的とした一般会計からの繰り入れは行えない。当面は基金や繰入金などを活用しながら、計画的、段階的な保険税率の見直しを行い、医療費の適正化や収納率の向上などで財源確保に努め、適正で安定的な国保運営を進めていきたい。

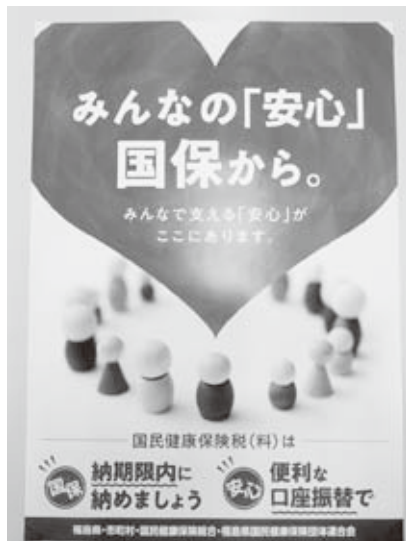
武田 国保制度では加入している家族一人一人に加算される均等割の負担が大きい。収入のない子どもにもかかる均等割の減免制度を検討すべきと思うが、考えを伺う。

村長 国保税の均等割は、子どもも課税されるが、国特有の制度ではあるが、法的に課税は各市町村の判断になる。14歳以下の子どもに課税しない

ことはできないことではないが、子どもの均等割を非課税にした場合は、他の方の課税額が1人あたり2千円ほど上がってしまう。バランスと実態を見極めて検討し、次年度への課題として捉えた。

武田 国保制度では、医療費が保険料に大きく影響する。医療費を減らすためには早期発見、早期治療が原則だと思う。そのためには、無医村の大玉村に医療機関の誘致を本気で考えるべきだと思うが、考えを伺う。

村長 健康長寿の村づくりが進み、結果として医療費が下がることに期待している。谷病院の診療所がなくなつてからも



国保加入者の負担を減らす方策は

医師の確保に努めてきたが、原発事故以来、大病院でも医師不足の中で、大玉村でも確保することは非常に困難だと考えている。30分圏内に大きな病院が存在することから、

当面は医療機関への足の確保を最優先に取り組みたい。医療機関の誘致を諦めたわけではないので、引き続き検討していきたい。



病気の早期発見・早期治療のために定期的な健診の受診を

他に次の質問がありました。

- ・高齢者の居場所づくりについて
- ・働き方改革と非正規雇用労働者の待遇改善について

持続・発展する大玉村をめざして

質問趣旨

全国的に人口減少となる中で、大玉村は人口が増えている。さらなる増加と持続をめざす取り組みが求められる。



須藤 人口増加の状況を伺う。

住民福祉部長 3

月31日現在の太玉村の総人口は8785人で、前年度より115人増加している。世帯数は、91世帯増加の2891世帯である。そのうち0歳から14歳までの年少人口は1299人で、前年度より56名増加している。総人口に占める年少人口の割合は14.8%である。

須藤 人口増加の主要因として、どんなことが挙げられるか伺う。

村長 長年にわたる定

住化政策、住宅造成助成が非常に大きい。さらに、福島や郡山への通勤・通学圏内といった場所の優位性、近隣と比較して土地が安いこと、子育て支援や教育制度がしっかりとっていることなどが挙げられる。また、国内



魅力ある中山間地域

で最も美しい村連合」加盟などでも、大玉村に興味を持っていただいている。これらの施策から、大玉村を選び、住んでいただいていると考える。

須藤 人口が増えることは、住む人々にとつて誇りや希望につながる。村長の所感を伺う。

村長 村を愛し、外に行つたときも頑張っている村を自慢できるような、プライドを持つて住める地域を、行政のみならず村民も一体となつて考えていくべきである。人口増加をどこまで継続できるか未知数ではある

が、努力し、1年でも先に延ばすことが大切である。今後も住んでいる方の満足度を高めることが命題と考える。

須藤 今後の課題は、大玉村と何らかの関わりを持つた交流人口を増加させることである。地域おこし協力隊などさまざまな方と協力・提携していくことが大事だと思うが、考えを伺う。

村長 課題も利点も地域ごとに異なる。人口増加のために地域の特徴を十分に活用しなければいけないと考える。遠方の方が移住する理由は、自然環境の中で生活したい、景観が美しいなどである。Iターン、Jターン、Uターンの受け入れ体制の整備のために、地域おこし協力隊を産業課に配置している。受け皿づくりをして、地域のいいところをピックアップし、移住者への対応ができればと考えている。

須藤 大玉7、10区の区長の連名で村と議会に陳情が出された、仮称「地域活性化センター」

設置の要望は、3月議会にて全会一致で採択された。1日も早い建設を求める。

村長 当時の婦人ホームは、国、県、村で、地域の活性化、地域振興を目的に建設されたもので、他の施設とは歴史的な経緯が異なっている。中山間地域の特性を生かした産業振興と研修の拠点、地域のコミュニケーションの場や高齢者の身

近な施設、災害時の避難所など、施設の必要性は十分に認識している。できるだけ早く建設したいと考えている。

公共施設を建設する場合は財源の確保を最優先にしたいと考えている。財源確保のため、該当する補助・支援等がないかを調査しており、その結果を受けながら事業に取り組んでまいりたい。



早急な整備が待たれる「婦人ホーム」

他に次の質問がありました。

・村の財政とseeの見通しについて



「健康長寿の村づくり」への取り組みは

質問趣旨

大玉村ならではの特性ある地域づくり、特色ある健康長寿の村づくりを期待する。

所と協し、積極的に関わりを持ちながら進めていきたい。



村体育協会スポーツ研修会「ボッチャ体験会」
(6月9日)

押山 子どもが多いことを活かした地域づくり、健康長寿の村づくりを願うが、構想を伺う。

住民福祉部長 全村挙げて政策を推進するための「健康長寿村民会議」を設立し、同時に事業を展開していく。医療、スポーツ、社会参加を促すためのポイント制度を核として、検討している。

押山 生涯現役で活躍できる村づくりに向けての推進策や直売所を通じて生産農家の発展が、地域づくり、健康づくりの鍵と捉える。感想を伺う。

産業建設部長 営農をされている方は生き生きしていると感じる。産業振興や営農指導は、村づくり株式会社や直売所と協し、積極的に関わりを持ちながら進めていきたい。

め、人材の養成や民生委員の地域協力員制度化など、地域の指導者確保に向けた施策が必要ではないか。

村長 地域支え合いの人材育成は健康長寿の村づくりの最重要課題である。健康長寿の知識や理解を持った方を地域に養成するなど含め、「健康長寿村民会議」で制度化をしていきたい。

押山 健康ポイント制度の導入や地域健康ステーションの設置等により、地域企業や直売所等を活用する考えはあるか。

住民福祉部長 現時点

では、保健センターを拠点として健康ポイントを付与する想定である。

産業建設部長 健康ポイントを商業振興協同組合のさくらカードに反映させるなどの視点も加味して検討を進めていくことも考えられる。

押山 補助金頼り、コンサルタント頼みの戦略ではなく、営農グループ

押山 生産農家、JA、行政機関等の積極的戦略が求められる。ブランド化に向けての考え、スケジュールを伺う。

産業建設部長 現在村で生産されている米に、栽培方法や食味などの基準を設けてブランド化を推進していきたい。6月末に第1回目の推進準備会を開催し、県やJA、村内の生産者、法人、認定農業者の方々と協議を進めていきたい。

押山 福島県産オリジナル

村長 「福島40号」は登録制であり、県独自の栽培方法もある。県の募集に対し、村としても積極的に取り組み、県と十分協議しながら「福島40号」もブランド化を検討していきたい。



ブランド化が期待される大玉村の米

大玉村産米ブランド化に向けて

質問趣旨

大玉村産米のブランド化の目的・可能性・戦略を伺う。

ごみの減量化と環境教育の推進は

質問趣旨

大玉村環境基本条例が定める循環型社会^{※1}を推進することで、村民が誇れる美しい村になると考える。



佐原 「広報おおたま」に、ごみの総排出量と昨年の比較が毎月掲載されている。どのような目的で総

住民福祉部長 「1人1日当たりのごみの排出量」は、平成29年度が776^{グラム}、30年度は756^{グラム}である。「リサイクル率」は、平成29年度は19・9%、30年度は19・4%となっている。

佐原 福島県では、一般廃棄物処理状況の「1日1人当たりのごみの排出量」と「リサイクル率」の市町村別ランキングを公表している。本村の平成28年度の「1日1人当たりのごみの排出量」は767^{グラム}で第11位、「リサイクル率」は24・1%で第3位と、とてもよい状況である。平成29・30年度の数値を伺う。

佐原 排出量を表示しているのか伺う。



ボランティアネットワークによる村クリーンアップ活動（6月2日）

住民福祉部長 環境保全や資源循環を推進していくには、住民一人一人が関心を深め、おのずから行動することが必要だと考える。広報紙でのP

佐原 近年、食品ロスやプラスチックごみ問題などが話題になっている。本村でも何らかの行動を起こすべきだと思うが、具体的な取り組みは。

住民福祉部長 環境教育も必要だと思う。推進のための施策はあるか。

佐原 本村は、「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」の会員になっているが、何か事業を行うのか。

住民福祉部長 環境美化活動の県知事表彰を受賞したボランティアネットワーク、あだたらの里直売所の直売会、建設業関係の会社、村職員互助会など、ごみ拾いのボランティアを実践しているところがある。このような活動が意識向上につながることを期待している。

教育長 環境に関心を深め、環境を守る実践力を養うため、幼稚園や小学校、中学校で環境教育を実践している。今年度は大玉中学校の2年生・3年生が、SDGs^{※2}を学ぶ「おおたま未来デザイン事業」と福島県産業資源循環協会の事業に取り組んでいる。

村長 SDGsの趣旨に賛同して入会した。会としての具体的な活動はまだないが、職員には研修会を実施する予定である。こおりやま連携中枢都市圏でも、SDGsの考え方の共通認識を持つて事業計画を進めることになっている。



SDGsを学ぶ大玉中2年生・3年生（5月30日）

※2 SDGs…表紙参照。

※1 循環型社会：リデュース（ごみを減らす）、リユース（繰り返し使う）、リサイクル（使ったものを資源として再利用する）を行うことで、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷をできる限り減らす社会。



「子育て支援センター」整備の課題

質問趣旨

「子育て支援センター」整備は、大玉村が重点政策として実施してきた定住人口増加対策の集大成と考える。

佐々木 施設整備において、子育て世代へのヒアリングなどの検討経過を伺う。

住民福祉部長 在宅子育て応援奨励金の受給者とさくらカフェ利用者の方を対象に情報交換会を開催した。本年2月には、保育所入所説明会で概要設計などを説明し、保護者層の意見を聴くためのアンケート調査を実施した。

佐々木 設計段階から、住民との対話と協働の可能性を適切に評価できる「設計プロポーザル方式」を入札に導入する考えは。

総務部長 手続きの開始から契約締結までに長期間を要するなどの問題がある。村財政に負担の少ない競争入札が望ましいと考える。

佐々木 施設で「何を支援すべきか」などを十分に



子育て支援センター建設予定地（玉井字東三合目）

検討するとともに、施設の用途や計画内容を検討する委員会を村民も交えて設立すべきと考えるが。

住民福祉部長 今までも意見聴取などを設けてきたが、さらに子育て世代の方やPTA代表者、建築関係者、有識者を含めて話し合いを進めていければと考えている。

佐々木 国土交通省はプロポーザル方式を推奨しているが近隣自治体の実態は。

若手職員に課したプロジェクトの実現への道筋は

質問趣旨

若手職員の3つのプロジェクトチームの報告・提案が実現するための方策が必要と考える。

佐々木 村長の評価と課題は。

村長 プロジェクトは政策形成能力やスキルを上げる目的で実施した。事業の実施を前提とした計画立案プロジェクトではなかったが、きつちりとした調査をし、住民からの意見を聞いて、かなりいいものができたと評価している。

佐々木 今後プロジェクトチームは継続して活動を行うのか。

村長 プロジェクトとして研究を継続する可能

総務部長 二本松市と本宮市の過去3年間の実態を調べたところ、二本松市では霞ヶ城の城跡の建築物設計で実施した経緯がある。本宮市では実績がない。

性はある。実現のためにこのままプロジェクトを継続することはないが、内容によって実現の可能性があるものは、庁議や管理職で検討する。現在若手職員が計画立案研修で行う新たなプロジェクトはない。



3つのプロジェクトチームの報告書

他に次の質問がありました。

- ・「健康長寿の村づくり」の進捗状況は
- ・大玉村産米ブランド化の検討状況と課題は



スポーツ少年団紹介

大玉村の子ども達たちを応援すべく、前号に引き続きスポーツ少年団の紹介をします。今回は「大玉バレーボールスポーツ少年団」と11月に行われた「第35回スポーツ少年団交流会」の様子です。



練習日時
練習場所

火・木／午後7時～
玉井小学校体育館

土／午前9時～

団員数は10名と少ないですが、保護者の協力のもと、とても仲良く活動しています。

玉井、大山と二つあったスポーツ少年団が今年度から、大玉として一つになり、指導者も6名と増えました。一人一人の基礎的な練習に、より力を入れることができ、体づくりはもちろんのこと、スポーツの楽しさや仲間を思いやる気持ちを育てる環境づくりに寄与しております。

子ども達の健全育成を日々心がけ、練習試合・大会参加を通してチームワークの大切さや楽しい思い出をたくさん築き上げていきたいです。練習体験もできますので、バレーに興味のある子は気軽に遊びに来てください。

大玉バレーボールスポーツ少年団



(11月23日)

大玉村スポーツ少年団本部では、毎年11月にスポーツ少年団交流会を開催しています。

交流会では、それぞれのスポーツ少年団の代表団員が、一年間の活動を通して学んだことや楽しかったこと、今後の目標を発表しました。発表会の後は、村民屋内運動場で長縄跳びやドッジボールなどのレクリエーションを行い、他のスポーツ少年団員と交流することができました。芋煮会では、一緒に豚汁をお腹いっぱい食べて、親睦を深めることもできました。

本部では、スポーツ少年団の活動を通し、心身共に健康で、たくましく、未来を切り拓いていく子ども達を応援しています。新規団員の加入をお待ちしております。

第35回 スポーツ少年団交流会

編集後記

昭和から平成、そして令和へと時代は変わりました。私にとって昭和は結婚、子育て、あつという間に過ぎたように思います。平成では大きな自然災害が数多く発生しました。令和という新しい時代が穏やかなものであつてほしいと願うところです。

私たち議会広報編集特別委員は、意見を交換し合い、わかりやすい議会だよりの編集に4年間務めてまいりました。次の議会だよりからは、新しい委員が編集します。今まで以上に村民の皆様によりわかりやすい議会だよりが発行できることを望んでいます。(松本 昇)

議会広報編集特別委員

委員長 ● 鈴木 康広
副委員長 ● 本多 保夫
委員 ● 佐原 百合
委員 ● 松本 昇
委員 ● 佐々木 市夫
委員 ● 菊地 利勝